安心して過ごせる日々を取り戻すために

～コロナウイルス感染症に対する取り組み～

長上苑ショートステイ
伊藤奈生・渡邉恵梨

施設概要

平成10年開設

〇短期入所　55床
〇通所介護　25名
〇訪問介護
〇訪問入浴
〇居宅介護支援

2020年　　2021年　　2022年

感染者数が増えているなぁ…施設で感染拡大しなければいいなぁ

施設内でコロナが…それも次々と増えていくどうしよう…

感染対策用品

コロナ発生時の懸念点

従来型のため
ゾーニングが
難しい

サービスの特性上
利用者の入れ替
わりが多い
さらに55床と規模
が大きい

3階の利用者は
認知症の方が多い
ため、マスクの着
用が徹底できない

水際対策として

①利用者並びに同居家族の入苑前の体調確認

②入苑当日の体調観察

③ワクチン接種歴の把握

④希望する職員に対する嘱託医でのワクチン接種

⑤職員の休憩場所の分散化

⑥受付にビニールカーテンの設置　　など

コロナウイルス感染症　長上苑第一波（7/7～7/24）

職員のコロナ感染発覚後に次々と職員、利用者に広がりを見せ、当初は**入院**または**自宅療養**をお願いしてきた

しかし

入院ができず、自宅にも帰れない利用者が出てくる

施設内療養の決断の時！

感染対策委員会の立ち上げ

委員：施設長・課長・課長補佐
係長補佐・フロアリーダー
看護師・管理栄養士
（1日2回午前・午後開催）

3階全フロアを感染エリアとしてゾーニング

18日間で収束
（7/7～7/24）

集団感染を経験しての課題点①

①利用者個々に主治医がおり、嘱託医が全利用者のことを把握しているわけでない

②陽性者が確認された際、直ぐに新規入苑者を止めなかったため、感染が広がってしまった

③発生したフロアが認知症の方が多く、濃厚接触者を早期に特定できず、ゾーニングがフロア全体となってまった

集団感染を経験しての課題点②

④陽性者との接触が不確定のため、同一フロアの利用者を原則退苑させなかった結果、感染が広まった可能性がある

⑤日に2回開催をしていた感染対策委員会での決定事項が職員に周知できていなかった

⑥食事の見守り等で感染エリアに長時間職員が入る結果となってしまった

課題解決に向けて

主治医が対応
できない場合、

感染者が出た際、

グループウェアを
活用して職員へ
情報共有をする

食事の提供を
10時・17時半の
2回とする

使い捨ての丼ぶ
りを使用する

していただく

新規受け入れ
中止

コロナウイルス感染症　長上苑第二波（8/4～8/19）

直ぐに課題解決に向けての対応の実施

第一波、第二波の比較と考察

『第一波』	『第二波』
職員　5名	職員　3名
利用者10名	利用者14名
3名施設内療養	13名施設内療養
合計　15名	合計　17名
期間　18日	期間　16日

第二波の方が陽性者数、療養者数が多いが収束までの期間を2日間短縮できた

考察

☆2日間収束までの期間を短縮できた理由

◎早い段階で感染エリアに感染者を集めることができた

◎食事の回数を減らし、丼ぶりにしたことでケアにかかる時間の削減ができた

その一方で

居室内で過ごす時間が長く、意欲やADLの低下、食欲不振等がおき、療養とケアの両立の難しさを実感

ショートステイの現在と今後の展望

現　在

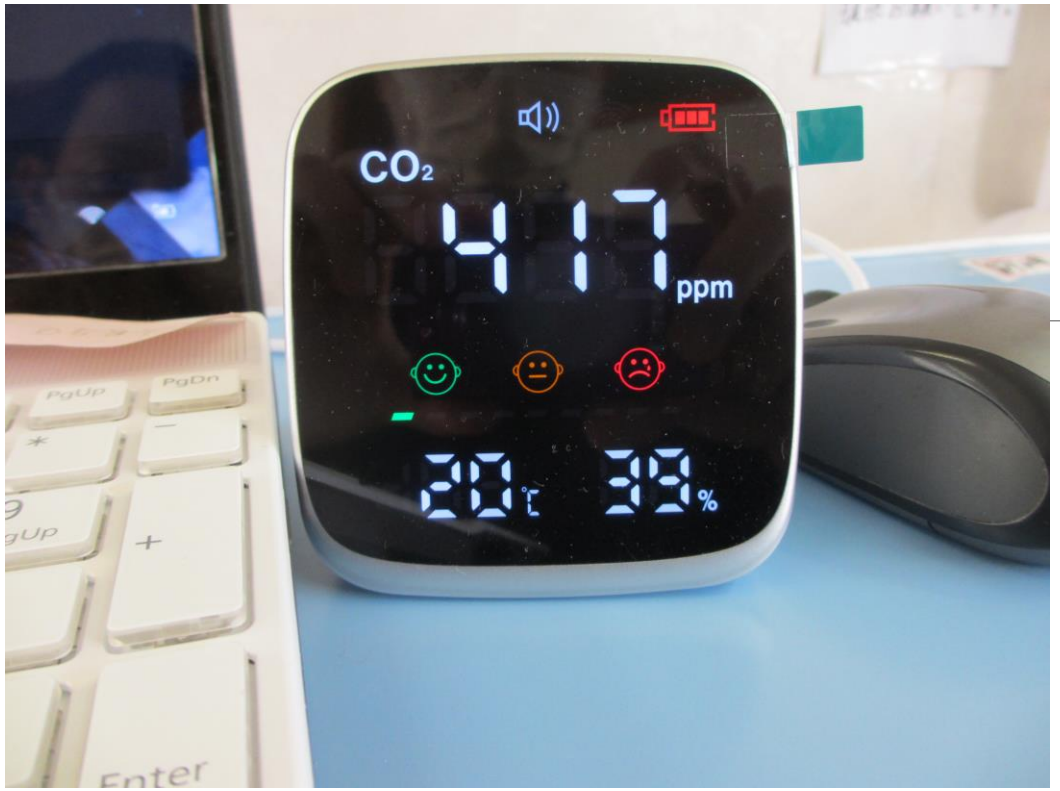
介護者のための
「レスパイトケア」での利用

突然のアクシデント等
により、在宅生活が困
難となった方の緊急
避難先として利用

今後の展望

地域包括ケアにおいて
看取りケースの受入れ
の期待がされている

職員が安心して働くことのできる職場づくりが重要



換気が重要

扇風機の増台
CO2測定器の設置
換気の状況の『見える化』を図る

1日2回
感染対策委員会
の開催

随時変化する状況
への早期対応

委員会が現場職員にとって
『精神的な支え』となる

感染に対する
知識・意識の向上

職員同士
密に声をかけ合う

自ら考えて行動できる

富士5丁目

白いタオル9個まで
牛乳パック8個まで

ご清聴ありがとうございました